

1 合格番号を見たときについて

山下先生から、試験後のガイダンスで、「合格発表までが受験生である」と指摘されました。試験当日の解答速報で、合格点は、確認できていたので、合格発表までの約2か月間は、とても長く感じましたが、待てば海路の日和ありでした。合格発表当日朝8時半の電子版官報で確認しました。その1時間後に試験センター発表のデータでも、確認したので、合格したと確認しました。

2 受験回数と苦労話

3回受験しましたが、年間通じて勉強したのは、今回が初めてでした。選択式試験の労働一般常識で苦労しました。労働経済は、「黙っちゃられない講座」は、他校にはない強みです。労働経済については、他の予備校は、直前期の付け焼刃学習ですが、本腰を入れて取り組む予備校は、LECだと思います。その成果もあって、4点取れました。

3 勉強時間と工夫について

勉強時間は、通学しない日は、1日3～4時間程度でした。過去問中心に、模試と答練の復習で解答力を付けました。移動時間は自分の空間が作れるので、寝るのもいいですが、何かしら集中して勉強するには適していると思います。例えば、「1駅で5肢択一1問解く」など、タイマーがなくても、時間管理には役立つと思います。過去問解いてテキストを読むのはいいと思いますが、ただテキスト読んでも学力が定着するのは、時間がかかると思います。社労士試験は、テキストの量が分厚く、試験に出ないことも書かれているので、試験に出ることから理解してテキスト全体を理解すれば、選択式試験にも対応できると思います。

4 山下講師の講義について

個人的には、他校も含めて社労士講座の講師を知っていますが、山下先生は、「勝負の厳しさを知っている」講師です。この一言に尽きます。「勉強しているのに点数が伸びない」、「学習方法がわからない」と思うなら、講義を「聞かない理由はない」です。

山下先生の講義は、方法論が印象的だったので、「方法論に素直に従えば」、点数は伸びます。誰でも、「自分は正しい」、だから、「自分の方法を貫く」と思います。しかし、結果が出ないのであれば、大人しく修正するしかありません。なぜなら、その方法は「不合格が確約されているにすぎない」からです。

山下先生は、「合格への道筋を示すには適している」講師です。変な希望を持たせずに、現実的なアプローチなので、しっかり聞くと役に立つと思います。

点数を取るのにとことんこだわっていますが、それ以上に大切なことを教わったと思います。合格するだけが目的であれば気にしなくてもいいかもしれませんが、合格してから「人の役に立つ」のが大切なことであって、「社労士の勉強に興味があっても、聞く価値がある」と思います。ということは、社労士の勉強に興味があるなら、「真摯に耳を傾けるべき講師」ということができます。

山下先生自身は、「自分の講義は、聞く気がない人は聞かないでいい」というのは印象的でしたが、むしろ逆です。「聞く気がない人ほど。真摯に耳を傾けるべき」です。「良薬は口に苦し」とはいいですが、山下先生の名前にも「良」という文字があるので、講義も、「良薬」だと思います。「知っているのと知らないとは、大違いと思える講師」です。

5 直前お勧め道場について

100の法則です。6月あたりでもいいと思います。というのは、仕上げに100の法則よりは、100の法則から直前学習の優先順位を考える方が合理的だからです。100の法則は、アウトプット講座ですが、「究極のインプット講座」であって、試験場に何か1冊安心できるテキストはないかと聞かれたら、「100の法則のテキスト」をお勧めします。個人的には、択一式試験前に読んでいて、選択式労働一般常識の正解を確認できたので、安心して択一式試験に取り組みました。運慶展を見に行くと、はるか昔の彫刻ですが、生きているように見えました。そんな感じで、100の法則は、過去問題材ですが、まさに。「生きた過去問テキスト」です。

6 受験生へのアドバイス

LECの受講生は、レベルが高いです。最初に通学した感想が、「こんな受講生たちと勝負してもかなわない」と思いました。それくらいすごい受講生が多いですが、講義についていけば、学力は付くと思います。真剣に取り組む受験生が多いのもLECの特徴です。誰でも勉強するのは大事ですが、「模試で疲れていても任意参加の解説講義を聞く」受講生を見るだけでも、勉強になります。「真剣な人たちを見ていると、真剣にならざるをえない」からです。ファイナル模試を受けた日は、朝9時頃から、休憩2時間程度含めて夜9時頃終了でした。とても疲れましたが、いい思い出です。「真剣に取り組むなら、真剣に取り組める環境がある」、それがLECだと思います。